

登録に向け再出発

7月2-10日にカナダのケベックで開催された第32回ユネスコ世界遺産委員会で、「平泉の文化遺産」の審議が6日に行われ、登録を見送って審査をやり直す「登録延期」が決議されました。

「平泉の文化遺産」については5月23日、ユネスコの諮問機関・イコモス（国際記念物遺跡会議）が、「普遍的な価値の証明が不十分」などの理由から「登録延期」を勧告。これを受けて国、県、3市町では、勧告に対する反論資料の作成を行うとともに、ユネスコ日本政府代表部の近藤誠一特命全権大使を中心に、21カ国の委員国に対し、「平泉の文化遺産」の価値を分かりやすく説明するなど理解を得られるよう努めてきましたが、登録には至りませんでした。

紙面では、町長をはじめとする関係者の声をお知らせします。

3年後の登録へ 新たな決意



平泉町長
高橋 一男

このたびカナダのケベックで第32回世界遺産委員会が開催され、「平泉の文化遺産」について審議された結果、「登録延期」の決議がされました。

平成13年4月に世界遺産暫定一覧表に記載されて以来、史跡の指定、景観条例の施行等、町民の皆さま方のご協力を頂きながら、登録に向けた準備を重ねてきましたが、このような結果となりましたが、このような結果となり、誠に残念に思っております。また、これまで登録に向けて、町民の皆さまをはじめ多くの方々よりご協力を頂いたことに、心から感謝申し上げます。

しかしながら世界遺産委員会

の審議では、多くの委員国から、平泉の文化遺産を高く評価する意見が出されるなど、『世界の平泉』としての認識を新たにしたいという意味で、これまでの努力が実ったともいえます。

これで世界遺産登録への道が閉ざされたわけではなく、このような世界的な評価を受けて、今後とも国や県、関係機関等のご指導を仰ぎながら、3年後の登録を目指し、新たな決意を持って最大限努力していく所存であります。

町民の皆さまには、引き続きご支援等を賜りますようお願い申し上げます。

資産価値に高い評価も



教育長
佐藤 敏雄

日本政府代表団の一員として、現地に赴き審議に立ち会いました。誠に残念な結果となりましたが、会議において発言した委員国の多くが、平泉の資産価値を高く評価しておりました。

特に、平泉文化の持つ精神性について、深く理解を示す発言も見られるなど、「平泉」が確かに評価されているのを目の当たりにしたところです。

登録延期の理由としては、推薦書が資産の価値証明をし切れていないこと、日本とイコモスの間に価値基準の認識に相違がある点、国際的な比較研究が不足している点など、登録される上で重要な部分について指摘を受けました。

世界遺産委員会は、基本的

に諮問機関であるイコモスの意見を尊重するものですから、今回の決議内容は、やむを得ないものだったと思います。

「平泉」が高い価値を有することは、委員国も認めることであり、むしろ今後改めて価値の証明がなされるよう、推薦書の改定・再提出を行うことができるように、配慮された決議と感じました。

引き続き世界遺産登録を目指して、関係機関団体と連携して作業を進めてまいりたいと思います。



「平泉の文化遺産」の登録の可否が審議された第32回世界遺産委員会



近藤大使。写真は構成資産視察時＝3月

決議は登録へ向けた再出発

ユネスコ日本政府代表部特命全権大使・近藤誠一
日本政府代表団による審議後の記者会見から

見もあつたが、制度上の問題もあり、今回は「登録延期」の決議となった。

世界遺産委員会は専門家の会議であり、やはりイコモスの意見は尊重すべきであり、この次は世界遺産の登録基準に合致するようにしたい。

今回の決議は、登録へ向けた再出発であり、ゴールはそう遠くないところにある。外務省・文化庁と地元とが手を取り合って努力していきたい。

イコモス勧告に「推薦資産の再検討」とあるから、浄土にかかわりの深い史跡地を中心に見直しはどうか。

中尊寺、毛越寺が、すでに世界遺産に登録されている日光に比べて遜色ないことには、言を俟たないであろう。

登録実現に向けて 内容の再検討を

達谷西光寺別當・達谷窟敬祐

登録実現のために、イコモスの勧告を受けて推薦書の内容を見直し、それにふさわしいかの再審査に臨むべきである。

まずは登録されることを優先したい。ともあれ関係各位の努力を無駄にしてはならない。

ユネスコ世界遺産委員会での登録延期の決定は誠に残念ですが、平泉の文化遺産の本質的価値は揺るぎないものと思っております。そしてこれまで多くの方々が尽力されてきたことが無になるとも思いませんし、世界遺産

自信と誇り失わず 登録に向け活動を

毛越寺執事長・藤里明久

への扉はまだ十分に開かれていません。私たちは自信と誇りを失わずに、気持ちを新たに登録に向けて活動していくかなければならないと考えます。町民の熱い願いを実現するために、より一層のご支援をお願い申し上げます。

「勧告」から「延期」という厳しい現実はどう立ち向かうべきか。文化庁・県の担当局はもちろんのことですが、われわれもこの際一度立ち止まって、どこに問題があったのか、経緯を見直してみることが大事でしょう。その

一度立ち止まって 問題点の見直しを

中尊寺執事長・菅野澄順

上でこそ、新たな出発も開け、本当の元氣も生まれるのではないかと。戦略がどうのといった表皮のテクニクの問題とは違う。そこを見誤っては、3年後も見えてこない。平泉が真に問われるのはこれからでしょう。

今回の審議結果は、いちらの期待を持っていただけに残念である。しかし、イコモスの指摘内容は痛い所を突かれた感がある。補足情報提供は十分に理を尽くしたものであったにもかかわらず、この結果である。文化庁は

浄土思想守り続け さらなる運動を

町世界遺産推進協議会長・穂積昭慈

今後も申請の範囲は変えないとしている。「浄土思想」とは私たちにとって「文化遺産の中で生活している空間から醸成された伝統文化」であり、それを守り続けながら、今後とも皆さん方とさらなる運動を展開してまいりたい。